

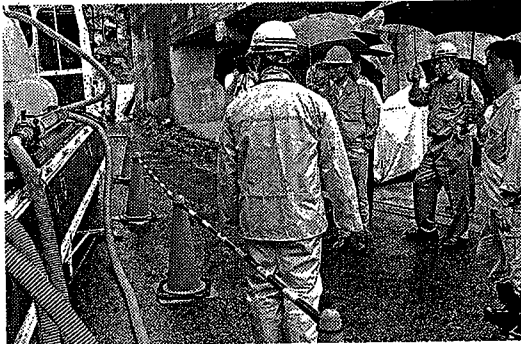
2015年(平成27年)9月10日(木曜日)

# 急勾配下水管を効果的に洗浄

東亜グラウト工業

## 自治体招きアイスピグ工法見学会

自治体の下水道担当者ら30人が参加



マンホールポン

東亜グラウト工業は8日、特殊なアイスシャーパーベツトで下水管にたまった夾(きょう)雑物を効果的に除去する「アイスピグ管内洗浄工法」をアピールするため、自治体向けの見学会を東京都多摩市連光寺の現場で開いた。同市のほか近隣自治体の下水道担当者を含め約30人が参加し、長年蓄積した下水管の汚れをアイスピグがきれいにそぎ落とす状況を確認した。

見学会が行われたのは、延長1.2km、径100mmの下水道圧送管(ダクタイル鋳鉄管)を清掃する現場で、多摩市が業務を発注した。マンホールポンプと幹線への排水口の高低差が約10mあり、急勾配区間では、マンホールポンプで揚げきれない石や砂、付着物が従来の工法(高圧水洗浄など)で除去し切れないことから、アイスピグ管内洗浄工法の活用を試みた。

丘陵地帯のある多摩市は、マンホールポンプで下水を幹線に圧送するエリアがあり、1〜2年に一度実施する清掃で夾雑物の除去が難しいケースもある。同市は今回の試行で急勾配区間でのアイスピグ管内洗浄工法の有効性を確認できたとしている。準備を含め短時間

管内清掃は、幹線側の排水口から特殊アイスシャーパーベツトをマンホールポン

プ方向に流下(毎秒0.5〜1m)させる方法で実施した。アイスシャーパーベツトの管内注入から、排出までの一連の作業は10分程度で終了。回収地点に設置された透明なパイプで、たまった汚れを包み込んで真っ黒になったアイスシャーパーベツトが排出される様子を確認した。

で作業を終えられる点が、狭い道路で有効だと見ている。

同工法は、特殊アイスシャーパーベツトでできたピグ(洗浄のための挿入物)が配管内に付着した赤さびやバイオフィームなどの汚れを落とす。アイスシャーパーベツトは、水を材料とするため管や人体・環境への影響がないほか、従来のピグ工法と違って詰まることがない。口径の変化や曲がりにも追従し、管内をくまなく洗浄できる。